①中学の頃にどんな仕事に就きたいと考えていた？ 　――――　　中学の頃には何も考えていなかった。高校の頃に地元の農協に勤めたいと思っていた。

②蘭越の農協で事務職員として務める。

例えば、農作物の収穫量の予想調査をして、実際の収穫高と通常の平均を見比べ、農家が入っている収入保険がどのくらい適用されるかを調べる仕事や、農協の上の機関である農業共済組合連合会に報告をし、農家の報告に不正がないかなどの確認をする仕事など。４年間ほど勤めた

③蘭越の農協で勤めた後、大学（鯉渕学園農業協同組合科）に入学。

農協法という法律について学んだ。

監査士の仕事について学んだ。

ここでは、畑作、稲作、畜産の世話当番があった。この学校の当時、一学年に四十人クラスが二つあった。

④鵡川町の農協で勤務

労務管理（人事的なもの）。教育などの仕事をした。

その後約６年間農協の衣料品・雑貨などのお店の管理係長になる。

⑤北海道農業協同組合中央会に移転

　監査員として勤務したのち、経営の仕組みなどの指導員として北見、帯広、旭川の支所へ行き、教育をした。

その後北海道農業情報センターで勤務した。

⑥経営監査部次長、部長を経て北海道地域農業研究所の事務局長となり、定年退職した。

※１　農協は、会員費として集めた金を組合員に貸し付ける、など銀行としての機能や、収穫保険だけではなく、生命保険などの保険の取り扱いもしている。

また、利用料を払うことで収穫した農作物の保管もでき、生産資材（肥料や農薬）も販売している。

スーパーのように野菜を売っていたり、日用雑貨や衣料品も扱っていたりするところもある。

※２　目名中学校から高校に上がった子供は８人。

　　　また、倶知安高校の生徒数は百人程度で、そこから直接大学に進学した生徒は、二十人程度。